

創立142周年



学校だより

は え

南風の子

中種子町立
南界小学校

平成27年10月7日(水)発行

10月も「自分に負けるな」の継続を

校長 岡留 祐宏

9月20日の合同大運動会は、晴天に恵まれ、盛会のうちに終了することができました。来賓、保護者、地域の皆様には、事前の準備、当日の運営・競技参加、声援をいただき本当にありがとうございました。かねてとは異なる運動場の雰囲気、子どもたちのやる気もぐっと高まりました。出場した競技・演技はもちろん応援や係の仕事においても、これまでの学習の成果をしっかりと発揮できたことをとても嬉しく思いました。



運動会の入場行進

運動会が終わり2週間。すでに、陸上記録会や町民体育祭の練習に取り組んでいます。また、校内学習発表会や町音楽祭、校区や町の相撲大会、駅伝大会と、今後も体育・文化行事が目白押しです。校内校外のいろいろな行事を通して、身体を鍛える、忍耐力、協力、感謝の心を磨く機会にしなければと思います。

また、多くの行事に取り組むこの時期においても、子どもたちが日々の生活リズムを崩さずに、授業中の集中力や家庭学習の取組が疎かにならないようにしなければなりません。毎日の努力の継続なしに成果が生まれないのは運動も学習も同じです。4月に立てた目標、1学期の反省をもとに頑張っている2学期の努力事項は、やり続けなければいけません。途中までやっっているが、「もういい」とあきらめてしまう気持ちを、かの武田信玄公も「成らずと捨つる人のはかなさ」と戒めています。できるも、できないも自分の心次第です。自分に負けず、今後も継続できるかどうかは、このあわただしい時期の過ごし方にかかっています。

10月は校内読書月間！

朝晩はずいぶん涼しさを増して、秋を感じます。全国で10月下旬から行われている読書週間に先立ち、本校では10月を読書月間としています。年間を通して読書を勧めています。肌持ちのよいこの時期には、読書にも一層取り組んでほしいと考えています。4月からの読書冊数が160冊に達している高学年の子どももいます。「最低でも年間100冊以上は読んでほしいな」と思います。この半年で50冊以上の子どもは24人です。平均読書冊数は10月初めで66.5冊になっています。

読書活動は決して冊数の競争をすることではありませんが、心に残る本との出会いは「心」を育て、その心が「言葉」を育ててくれます。多読によって良書との出会いも高まると言えます。

右の欄にも書きましたが、本との出会いも「あこがれの力」を育んでくれる者だと思います。

「あこがれの力」は子どもを育てる

Wカップラグビー日本代表の活躍で、ルールが分からなくても、一気にラグビーファンが増えたよう。決勝リーグ進出にもまだまだ期待を寄せている人も多いだろう。

ラグビーに魅了されている中、今度は、日本人研究者2人のノーベル賞受賞が知らされた。2000年以降で数えると、自然科学の分野の日本人の受賞者は、アメリカに次いで2番目に多いのだそう。

人は、親や周りの人をモデルにして鏡のように写し取ることで、真似て身に付けていくと言われます。これは大人も同様だそうです。あこがれのモデルを見つけて、自分の中にモデルを定着させることが必要だと言います。今回のラグビー日本代表やノーベル受賞研究者の姿も、子どもたちにあこがれを感じさせてくれたらと思います。

結核の最近事情（9月の結核予防週間から）

現在の日本でも1日に56人の新しい結核の患者が発生しているそうです。診断・判断の遅れによって感染が拡大することのないよう、学校・家庭・地域全体でこの認識の共有が必要だと感じます。